

『サブスタンス』

監督・脚本：コラリー・ファルジャ

出演：デミ・ムーア、マーガレット・クアリー、デニス・クエイド

2024年／アメリカ・イギリス・フランス／142分／R15+



公式サイト

発売中

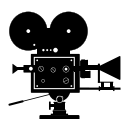
『サブスタンス』

Blu-ray ¥5,500 (税込)

DVD ¥4,400 (税込)

発売・販売元：ギャガ

©2024 UNIVERSAL STUDIOS



社会を旅する シネマ

きっと もっと 近くなる

きっと もっと 知りたくなる

ハリウッドスターたちの名前が刻まれた有名な歩道に名を連ねるほど、かつては一世を風靡したエリザベス・スパークル。しかし今ではその名を見ても「この人だれ?」と言われてしまい、仕事もエアロビクスの番組のみ。しかもその唯一の居場所さえ、50歳の誕生日に降板を言い渡されてしまう。プロデューサーいわく「視聴者は新しいものをほしがる」。新しいもの、それはすなわち「若くてホットな女」だ。

絶望の淵に立った彼女のもとに、ある日、細胞分裂によって「より若く、より美しく、より完璧なバージョンの自分」を創り出す「サブスタンス」という薬の話が舞い込む。「活性化剤」を注射すると背中が裂けて脱皮するように分身が誕生する。エリザベス本人が若返るのではなく、別の身体と人格をもつスーだ。ただし注意事項に「忘れるな あなたは1つ」と書かれているように、母体と分身の関係である二人は、どちらか片方しか「生きている」ことができず、7日ごとに交代しなければならない。スーの身体が保たれるのには母体であるエリザベスの体液の注射が必須であり、エリザベスの身体を回復させる期間が必要だからだ。

若さと美貌と愛嬌を兼ね備えたスーをプロデューサーは一目で気に入り、エリザベスの番組の後継として採用する。そして番組に登場するやいなやスーは人気を博し、スター街道をまっしぐらに登り詰めていく。仕事もプライベートも華やかな時



より良いバージョンの自分が 突きつける老いへの恐怖

アーヤ藍

間で充実し、7日間があっという間に過ぎていくスーとは裏腹に、母体のエリザベスは自分の老いを一層受け入れられなくなり、部屋に引きこもり、ただ食べ物をむさぼり、意味もなくテレビを見続けるだけの暮らしに陥っていく。そんなならしないエリザベスにスーも嫌悪感を募らせ、ついに7日間の交代という決まりを破り、自分の時間を延ばしていく。それは母体エリザベスの身体をむしばみ、老いを加速させていくのだった。

二人の互いへの憎悪は高潮し、阿鼻叫喚の結末へ向かうことになるのだが、両者の感情の根源に共通してあるのは老いに対する恐怖と嫌悪感だ。そして二人を追い込んでいくのは社会のルッキズムやエイジズムだ。「一つの二人」に対する周囲の反応のギャップがそれを引き立たせる。体のラインを撫で回すようなカメラも、美しさだけに依拠した褒め言葉も、結局のところ心の充足や安心をもたらしはくれないのに。

「美人はいつでも笑顔でないと」「鼻の代わりにオッパイがついていればな」など社会が浴びせてきた言葉を体現した「存在」が、美の基準の愚かしさを問いかけ、血しぶきとともに復讐するラストは圧巻だ。

終始緊張感が漂うホラー具合も、R15指定のグロテスクさも個人的には苦手なジャンルだが、観たことを後悔しない「面白さ」が心に残っている。

アーヤあい：映画探検家。慶應大学卒。在学中に訪れたシリアが帰国直後に内戦状態になったことが契機で、社会問題に関わる映画の配給宣伝を行うユナイテッドピープル(株)に入社。取締役副社長も務める。現在は独立して映画イベントの企画運営や記事執筆等を行う。編著書に『世界を配給する人びと』(春眠舎)。

